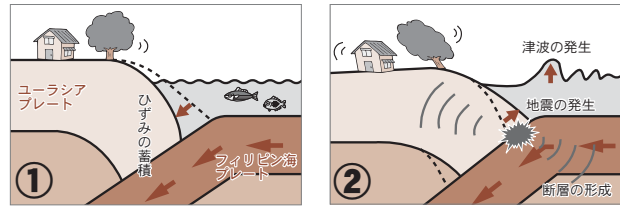


【図1】地震の発生する仕組み



海側のプレートが年間数cmの割合で陸側のプレートの下に滑り込み、陸側のプレートの先端部が引きずり込まれ、ひずみが蓄積する。

ひずみの蓄積が限界に達したとき、大陸側のプレートが跳ね上がり、地震が発生する。その際、津波が発生する場合もある。

宮城県沖は、太平洋プレートが陸側のプレートの下に沈み込み、生じたひずみに反発して地震が多発する地帯です。【図1】
これまでの宮城県沖地震の発生状況は、最短で26年の間隔となっており、前回の発生から32年が経過した今、今後30年以内に地震が発生する確率は99%といわれ、まさに大地震が明日に発生してもおかしくない状況にあります。

宮城県沖地震は30年以内に99%の確率で発生

とした「地震のときは火を消す」という防災意識が広く浸透し、みなさん一人一人が実践された結果だと考えられます。

緊急時の持ち出し品
被災したときには、次のようなものが欠かせません。災害に備え、普段から準備しておきましょう。
持ち出し品は欲張り過ぎず、最小限にすることがポイントです。リュックサックなどにまとめておきましょう。
また、少なくとも3日分の食料・飲料水を備蓄しておきましょう。取り出しやすい場所に、まとめておくことが大切です。

では、実際に地震が発生したときには、あわてずに的確に行動するためには、どのような準備をすればよいのでしょうか。
まず、地震に遭遇しても冷静さを失わず行動することが重要です。そのためには、自分のおかれた状況を正確に把握することが重要であり、例えば、避難場所を家族で話し合っておくことや、夜間の就寝中に地震が発生した場合に備えて、常に近くに懐中電灯を置いておくなどの日ごろの心構えや準備が大切になります。その上で、下に示す地震発生時行動10の心得を参考に自分や家族の安全確保、二次災害の防止などの措置をとってください。

備えよう
緊急時の持ち出し品
被災したときには、次のようなものが欠かせません。災害に備え、普段から準備しておきましょう。
持ち出し品は欲張り過ぎず、最小限にすることがポイントです。リュックサックなどにまとめておきましょう。
また、少なくとも3日分の食料・飲料水を備蓄しておきましょう。取り出しやすい場所に、まとめておくことが大切です。

地震の際に慌てずに対応をするためには
では、実際に地震が発生したときには、あわてずに的確に行動するためには、どのような準備をすればよいのでしょうか。
まず、地震に遭遇しても冷静さを失わず行動することが重要です。そのためには、自分のおかれた状況を正確に把握することが重要であり、例えば、避難場所を家族で話し合っておくことや、夜間の就寝中に地震が発生した場合に備えて、常に近くに懐中電灯を置いておくなどの日ごろの心構えや準備が大切になります。その上で、下に示す地震発生時行動10の心得を参考に自分や家族の安全確保、二次災害の防止などの措置をとってください。



地震災害に備えよう

毎年6月12日は宮城県民防災の日です。この防災の日は、今から32年前に発生した宮城県沖地震の教訓を生かし、県民の地震災害に対する防災意識の高揚を図ることを目的として制定されたものです。「災害は忘れたころにやってくる」という言葉のとおり、災害はいつ起こるかわかりません。「いざ」というとき、自分や家族の命を守り、被害を最小限に抑えるために、わたしたちはどう備えればよいのでしょうか。

日本は「地震大国」地震発生率はトップクラス

わたしたちが住む日本は、「地震大国」として知られ、小規模な地震は毎日のように発生しています。全世界の土地面積にしろめる日本の土地の広さは、0・25%しかないのに対し、全世界で発生したマグニチュード6・0以上の地震における、日本での発生割合は20・9%、そして活火山数の数は10・4%にも及び、日本は、世界有数の地震大国といえます。【参考】内閣府HP世界に比較する日本の災害
過去宮城県では、昭和53年6月12日に発生した宮城県沖地震によって非常に大きな被害を受けました。

また当時の記憶が薄れつつある中、平成15年5月26日の三陸南地震、同年7月26日の宮城県北部連続地震、特に平成19年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震では、震度6強を観測した栗原市を中心に、各地で土砂崩れや家屋の倒壊などが発生し、多くの行方不明者や負傷者が発生するなど地震災害の恐ろしさをあらためて認識させられました。
市内では、人的被害は最小限にとどまりましたが、停電や水道管の破損、壁の亀裂や一般住宅のブロック塀の損壊など、各地で物的被害が多発しました。
幸いにも、この地震による火災などの二次災害は発生しませんでした。これは宮城県沖地震などを教訓

地震がおきたら

《地震発生時の行動 10の心得》

<p>1まずは身の安全を確保</p> <p>揺れがおさまるまで、机の下や丈夫なテーブルなどの下に身を隠しましょう。</p>	<p>2すばやく火の点検・火の始末</p> <p>落ち着いて火を消し、ガスの元栓を閉めて出火を防止しましょう。</p>	<p>3火が小さいうちに初期消火</p> <p>火が出たら大きく延焼する前に、すばやくみんなで消火活動しましょう。</p>	<p>4ドアや窓など脱出口の確保</p> <p>ドアなどがゆがみ、開かなくなることがあります。まず出口を確保しましょう。</p>	<p>5あわてて外に飛び出さない</p> <p>外に出るときは、瓦やガラスなどの落下物などに注意してください。</p>
<p>6石垣や塀には近づかない</p> <p>倒壊の恐れがあるので狭い路地や塀ぎわ、門柱、石垣などには近づかない。</p>	<p>7山崩れ・がけ崩れに要注意</p> <p>山林や崖の近くなど危険な場所では、すみやかに避難行動を取りましょう。</p>	<p>8避難は徒歩 荷物は最小限に</p> <p>車の使用は渋滞を招くため厳禁です。道路は緊急車両が優先されます。</p>	<p>9協力し合って 応急救護</p> <p>地域みんなで協力し合って、けが人や病人の救護処置を行いましょう。</p>	<p>10正しい情報の収集を心掛ける</p> <p>デマに惑わされず、正しい情報を入手し、冷静な行動に努めましょう。</p>